

## くまびょう

113号

NEWS

くまびょう  
NEWS2006年  
11月1日

[発行所]

国立病院機構熊本医療センター

〒860-0008

熊本市二の丸1番5号

TEL (096) 353-6501(代)

FAX (096) 325-2519

## 新大型ドクターカーが配備されました



この度、救命救急センターに2台目のドクターカーが配備され、10月1日より運行を開始致しました。

新大型ドクターカーは、搬送される患者様の安静が保たれるよう静粛で快適な室内と、振動を最小限に制御するように、大型車両でありながらガソリンエンジンとエアサスペンションを採用しております。

室内は従来の救急車の2倍の広さがありますので、大動脈バルーンポンピング (IABP) ・経皮的心肺補助装置 (PCPS) ・人工呼吸器など複数の生命維持装置

を装着した重症循環器疾患患者様の搬送を容易にかつ安全に行うことができます。特に急性心筋梗塞や急性大動脈解離は搬送中の急変が多い疾患です。専門医と看護師および事務職員がお迎えに上がります。

御依頼は24時間いつでも受け付けておりますので、代表電話096-353-6501に御連絡頂き、救命救急センター医師に御相談下さいますようお願い致します。

(救命救急部長 高橋 毅)



## 基本理念

国立病院機構熊本医療センターは

1. 最新の知識と医療技術をもって良質で安全な医療を提供します
2. 人権を尊重し、愛と礼節のある医療の実践を目指します
3. 教育・研修・研究を推進し、医学・医療の発展に寄与します
4. 国際医療協力を通して世界人類の健康に貢献します
5. 健全経営に努め、医療環境の向上を図ります



## 「ご挨拶 ー光の森からー」

かとう整形外科 光の森

院長 加藤 悌二

このたび平成18年6月8日に、菊陽町光の森に整形外科を開業させて頂きました。

大学勤務時代から米国（メイヨークリニック）、台湾（長庚紀年病院）の留学を経て、熊本再春荘病院に勤務している間、手の外科、肘の外科、末梢神経外科、微小血管外科に携わって参りました。開業しました現在でも、水曜日・金曜日の午後は手術をするための時間をとるためにクリニックを休診にしています。

自分のところでも手術を行っておりますが、症例の相談を受ければ体と時間の許す限り出張手術をさせて頂いております。時には血管柄付きの組織移植などをして緊張の中にも満足できる時間を過ごし、

外科医としての喜びを満喫しているところです。

国立病院機構熊本医療センターでは、数多くの救急患者様の対応をされておられますので症例も豊富で難しい症例も多く、やりがいのある病院だと常日頃うらやましく感じておりました。若手の先生方が腕を磨くにはもってこいの病院ではないでしょうか。また、病診連携や、救急の受け入れなど、積極的に外部と関わり合いを持って行こうとする方針は、われわれ開業医にとっては有難くまた心強いものです。これからも国立病院機構熊本医療センターが熊本のみならず九州の拠点病院として成長されるのは間違いのないと思いますが、できればお願いすることばかりでなく少しでもお役に立てることがあればと思う毎日です。

国立病院機構熊本医療センターのこれからのますますのご発展を心からお祈り申し上げます。



## 平成19年度 専修医（後期臨床研修医）を募集します

応募資格：平成19年3月31日までに臨床研修を終了する見込みの者または2年間の初期臨床研修終了者

研修期間：5年間（心臓血管外科のみ6年間）

研修内容：幅広い臨床能力と高い専門性を持つ臨床専門医を育成します。

希望者は研修期間中にナショナルセンター（国立高度専門医療施設）や他の国立病院機構病院、大学病院等との交流研修を行うことができます。

また、希望者は選考により米国Veterans Hospitalへの海外留学が可能です。

募集人員：各専門研修コース若干名（ホームページを参照下さい）

加入保険等：社会保険、厚生年金、国家公務員災害補償制度

休暇制度：年次休暇・有給休暇有り

選考方法：書類審査、面接等

願書締切：平成18年12月28日（木）

応募される方は事前に下記までお問い合わせ下さい。

〒860-0008 熊本市二の丸1-5

国立病院機構熊本医療センター 事務部管理課給与係長 永友

TEL096-353-6501（代）内線621 FAX096-325-2519

詳細についてはホームページをご覧ください。http://www.hosp.go.jp/~knh

2006

## 診療科紹介(5)

総合医療センター(5)

腎臓内科(腎センター)



富田 正郎

腎臓内科

日本内科学会認定内科専門医

日本内科学会指導医

日本腎臓学会専門医

日本透析医学会専門医

日本救急医学会専門医

外国医師臨床修練指導医

熊本大学医学部臨床教授

## 特色

当院は独立行政法人国立病院機構の全国ネットワーク(腎ネット)に参加して、難治性腎疾患の治療の向上に寄与しております。

また当院は日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会の教育関連施設、透析療法従事職員研修実習指定病院として認定され、後進の指導・育成にも精力的に取り組んでおります。



宮中 敬

腎臓内科

日本内科学会認定内科医

## 診療内容

腎臓内科定時外来は月曜から金曜、毎日午前8時30分より。定時透析業務は休日、年末年始に関わらず月曜から土曜日まで午前8時30分から終了するまで。救急患者は365日、24時間体制で対応させて頂いております。一貫した「断らない救急医療」の方針で対応し、いつからでも入院加療が可能です。慢性病態に対しては病診連携、病病連携を通して地域完結型医療を展開しております。

原則、紹介元医療機関と連携をとりますが、透析を開始した症例につきましては透析施設と連携をとる場合があります。その際は事前にご相談申し上げます。

## 研究

腎ネットによる多施設共同研究に参加し、腎病理組織の標準化、腎疾患臨床評価指数の策定、腎疾患データベースの構築等に取り組んでいます。

## 診療実績

平成17年実績

## 【透析】

血液透析	2,889件
新規導入透析患者数	36名
転入透析患者数	142名
急性腎不全透析件数	10件

## 【その他の血液浄化】

持続的血液濾過透析(CHDF)	147回
白血球除去治療(LCAP)	5回
血漿交換治療(PE)	3回
エンドトキシン吸着治療(PMX)	16回
CAPD導入	1件
APD	2件

## 【ブラッドアクセス】

シャント手術	42例
経皮的シャント血管拡張術	2例

## 【腎炎・ネフローゼ症候群】

腎生検	28件
-----	-----

## ■原稿を募集致します■

登録医の先生の投稿を歓迎致します。400～800字程度を基準にお願い致します。

送付先 〒860-0008 熊本市二の丸1-5

国立病院機構熊本医療センター 『くまびょうNEWS』編集室まで

いま、国立病院機構  
熊本医療センターで  
何が研究されているか

シリーズ 32回

## 大腸がん治療成績の向上を目指して ～大腸がん肝転移の予測～

外科 吉田 直矢



大腸がん治療は結腸がんと直腸がんで治療法に違いはありますが、総じて集学的治療の進歩により治療成績の改善がみられています。とくに根治手術を受けたstageⅢ大腸がんに対する術後補助化学療法はこの改善に大きく貢献していますし、また直腸がんに対する側方リンパ節郭清、術前補助放射線治療も同様です。

stageⅡ大腸がんに対する補助化学療法はまだ一般的ではありませんが、当院のデータでは補助化学療法を行ったstageⅡの大腸がん患者にはまったく再発がなく（5年で再発率は0 vs 38%）、現在stageⅡの中でどのような方に化学療法を行うべきか検討中です。現時点では静脈侵襲（v0<v1,2）、組織型（高分化<中分化）、郭清度D1>D2>D3で再発が多いというデータが出ています（平成18年7月消化器外科学会で発表）。この適応が明らかになれば、さらに治療成績は改善すると考えています。

大腸がんの再発形式はいまだに肝転移がもっとも多く、いかにこれを予知もしくは早期発見するかが大きな課題となっています。

臨床の現場では定期的な画像検査、腫瘍マーカー測定により再発の早期発見に努めていますが、画像検査は6ヶ月に1回程度であり、また既存の腫瘍マーカーが上昇しない再発例も少なくありません。

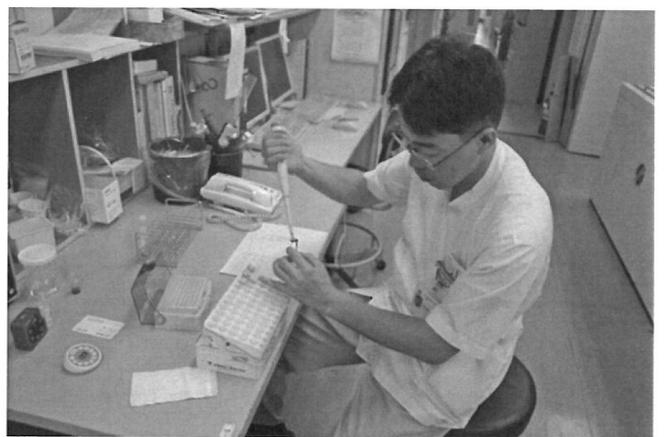
現在参加させて頂いている厚労省研究班で、肝転移リスク予測のスコアリングシステムを試作していますが、いまだ実用化には至っていません。将来に起こるかもしれない肝転移を手術の時点で予測することは非常に難しいことです。幾つかの病理所見や血液中のマーカーが候補に挙がっていますが、その多くは一般病院

では検索不能です。

現在当科では「一般病院で測定可能な肝転移予測因子」をテーマに、門脈と末梢血中のMMP-9とIL-8の測定を行っています。国立がんセンターから頂いた検体でpilot studyを行い、これらの物質が同時性肝転移と強い相関があることが分かりました。現在これが外来follow中の患者様の、肝転移再発のマーカーとならないかを検討中です。

大腸がんにおいて手術がもっとも大切なstrategyであることはまぎれもない事実ですが、と同時に手術だけでは治療成績に限界があることを実感しています。

最後に少しでもコマーシャルさせて頂くと、当院では腹腔鏡下手術だけでなく、下部直腸癌に対する自律神経温存側方郭清や肛門機能温存手術を行っています。当院で治療を受けられる患者様が少しでも良い結果が得られるように、これからも努力していきたいと思えます。



MMP-9測定実験中の風景

ホームページをご利用下さい。診療、研修、研究など情報満載です。

国立病院機構熊本医療センター ホームページアドレス

<http://www.hosp.go.jp/~knh/>

## 日本形成外科学会認定教育関連施設になりました。

日本形成外科学会は昭和33年に発足し、昭和47年に日本医学会の分科会の一つとして公認されました。

昭和50年形成外科は医療法による一般標榜科として正式な診療標榜を認められることになり、学会専門医の整備などが行われ会員数も次第に増加しました。現在、形成外科専門医育成の機関として、認定施設、教育関連施設を設けております。

国立病院機構熊本医療センターでは、形成外科診療を平成16年10月より開始しました。平成17年（1月～12月）の手術実績、形成外科に関する教育研究の実績をもとに、施設認定の申請をしました。審査の結果、本年4月付けで教育関連施設に認定され、平成17年度以降の当院での形成外科研修履歴が認定されることになりました。

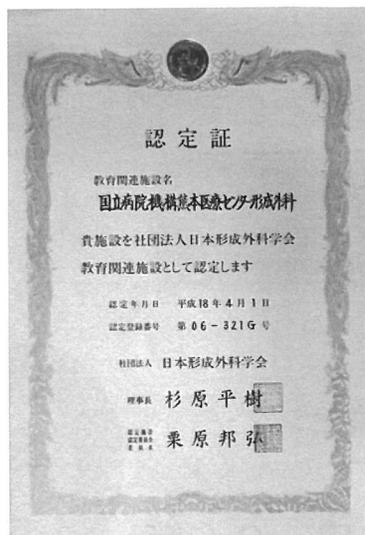
認定基準は1) 臨床研修病院またはそれに準ずる総合病院であること。2) 形成外科専門医が常勤していること。3) 形成外科の病床があること。4) 全身麻酔手術が年間80例以上あること。5) 形成外科関連の学会発表、誌上発表が年間1件以上あることです。

当院形成外科の平成17年診療実績は、外来新患328人、入院212人、全身麻酔手術157件、また学会発表な

ども活発に行っており、優に認定基準を凌いでおります。

熊本県内で施設認定をされた医療機関は熊本大学附属病院、熊本機能病院、熊本労災病院、国立病院機構熊本医療センターの4施設であり、今回の認定を受けて当院は形成外科専門医の育成を目指す教育施設として、重要な役割を担うようになりました。

(形成外科医長 大島 秀男)



## 日本臨床腫瘍学会認定施設に認定されました。

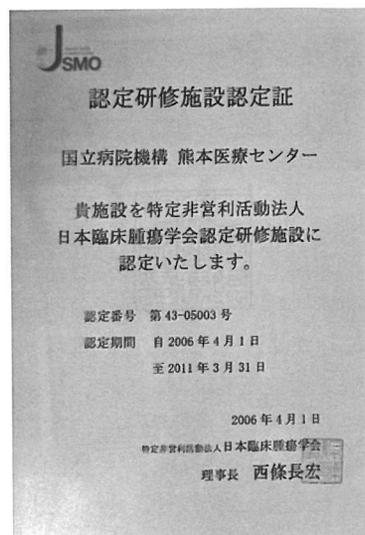
近年、我が国におけるがん治療に関して、がんの専門医が不足しているのではという指摘があり、臨床腫瘍学の重要性が強調されています。このような声を受けて日本臨床腫瘍学会は、がん薬物療法に精通する医師（がん薬物療法専門医）の養成を目的として、日本臨床腫瘍学会専門医制度を設け、その育成のための教育施設の認定を開始しました。

当院は、今まで多くの科でがん治療に取り組んできた実績があり、認定の条件（1. 悪性腫瘍患者が常時20名以上入院し、年間がん薬物療法が50例以上施行されていること。2. 指導医が2名以上または指導医1名、専門医1名以上が常勤し、指導責任者の下に十分な指導体制がとられていること。3. 本学会の研修カリキュラムに基づく研修が実施されていること。4. 施設IRB（倫理委員会）が機能していること。5. がん薬物療法に精通した薬剤師、看護師がいること。6. 病理学会認定病理専門医が勤務していること。7. 緩和医療の体制が整っていること。8. がんに関連した緊急事態に対応できる体制が整っていること。9. 院内に放射線治療装置が整備されていること。10. 院内

がん登録が実施されていること。）をすべて満たしておりましたので、平成18年4月1日に認定されました。

今回の認定を受けて、がん薬物療法専門医の育成を目指す教育施設としてさらに充実したがん治療を行うよう努力する所存です。

(副院長（臨床研究部長）河野 文夫)



## 新任職員紹介



画像診断・治療センター

放射線科

さいとう てつ お  
齋藤 哲雄

10月より放射線科に勤務しております齋藤哲雄と申します。

平成16年に熊本大学医学部を卒業後、国立病院機構長崎医療センターにて2年間のスーパーローテーター研修を行いました。

その後、熊本大学医学部放射線科に入局し、大学での5か月間の勤務の後、当病院でお世話になることになりました。

大学病院ではみることの少ない急性期の疾患を豊富に学ぶことができ、充実した毎日です。放射線科医となって約半年ですが、未だに経験する症例全てが新鮮であり、日々足元を見つめながら勉強しております。

未熟な身であり、各診療科の先生方にはご迷惑をお掛けすることが多いと思いますが、ご指導、ご鞭撻の程何卒宜しく願い申し上げます。

### 研修レポート

総合医療センター

内科

さだ きみ のり  
佐田 公範



はじめまして。平成18年4月より国立病院機構熊本医療センターで研修をさせて頂いております佐田公範と申します。2年間お世話になります。

研修が始まってから半年が過ぎました。麻酔科、外科、救命救急と外科系の研修が終わりましたが、何も

分からない私に「なぜそうするのか」という理論から、丁寧に手技や読影法を教えてくださいました。

また、何より医師としての妥協の無い姿勢については、本当に学ぶべきものがありました。当院の救急病院という性格上、この7ヶ月は軽症から重症の様々な患者様を診る機会があり、上級医の先生方と共に診察、検査、治療を行ってきました。早く患者様の異常に気づくためには、データや画像を後からパソコンで見のではなく、自分の目で常に患者様の状態を観察し、訴えを聞き、自分でそれを見破らなければならない、と言われたことが印象に残っております。7ヶ月は正直あつという間で、まだまだ自分の現在の知識や技量はちょっと貧弱のように思えます。現在、内科での研修中ですが、気を引き締めて、日々緩むことなく研鑽に励みたいと思います。

先生方にはご迷惑をお掛けすると思いますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

救命救急センター

たか はし あ き  
高橋 亜紀



はじめまして。平成18年4月より国立病院機構熊本医療センターで研修をしている高橋亜紀と申します。国立病院機構熊本医療センター専属の研修医として2年間お世話になります。

4月より当院で研修を開始した後、早くも約半年が過ぎました。これまでに、腎臓内科、代謝内科、循環器内科、神経内科でそれぞれ約2ヶ月間研修させて頂きましたが、日々充実しており、あつという間に過ぎたように思います。どの科においても、指導医の先生

方を中心に丁寧に指導して頂きながら、患者様それぞれの病態把握や治療方針、検査などを日々考え、相談し、大変勉強になる日々です。知識も手技などもまだまだ学ぶべきことだらけですが、心カテーテル検査や透析、IVH挿入など各科で行う処置についてもご指導の下、それぞれ学ばせて頂いています。又、病態で何か疑問に思った際など、各科の垣根も少なくすぐにコンサルトが出来る環境もあり大変勉強になります。月に数回、救急当直にも入りますが、そこでは実際の緊急性のある症例などを目の当たりにし、今後緊急性などの迅速な判断を行えるようになる為にも、大変貴重な経験となっております。

現在は外科系のローテートに移っておりますが、ここでも更に多くを吸収できるよう努力していきたいと思っております。まだまだ未熟者でご迷惑を掛けるとは思いますが、これからもご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

# ■ 研修のご案内 ■

## 第68回 ナースのための救急蘇生法講座 (会費制)

日時▶平成18年11月11日(土)13:30~17:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

講師 国立病院機構熊本医療センター麻酔科部長 江崎 公明

受付は終了させて頂きました。多数のご応募有難うございました。

次回は平成19年4月に開催されます。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線263 096-353-3515 (直通)

## 第63回 三木会 (無料)

(糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会)

[日本医師会生涯教育講座3単位認定]

[糖尿病療養指導士認定更新0.5単位認定]

日時▶平成18年11月16日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

### 1. 『尿中CPR 著明高値を呈した乳癌化学療法中の糖尿病の1例』

国立病院機構熊本医療センター内分泌・代謝内科

清水千華子、緒方真貴子、山村 明子、市原ゆかり、児玉 章子、高橋 毅、東 輝一朗、小堀 祥三

### 2. 『虚血性心疾患と糖尿病』

国立病院機構熊本医療センター心臓血管センター循環器科

田中 朋子、福嶋隆一郎、村上 和憲、宮尾 雄治、藤本 和輝

### 3. 『急性膵炎が疑われ、入院となった劇症1型糖尿病の1例』

国立病院機構熊本医療センター内分泌・代謝内科 市原ゆかり、児玉 章子、高橋 毅、東 輝一朗、小堀 祥三

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター総合医療センター内分泌・代謝内科 小堀 祥三・東 輝一朗 TEL 096-353-6501 (代表) 内線796

## 第207回 初期治療講座 (会員制)

[日本医師会生涯教育講座5単位認定]

日時▶平成18年11月18日(土)15:00~18:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

「日常診療で診る小児の救急疾患—発熱痙攣を中心に—」 座長 熊本市医師会 水元 裕二

### 1. 小児の発熱

国立病院機構熊本医療センター小児科医長 森永 信吾

### 2. 症例呈示・小児の痙攣

国立病院機構熊本医療センター小児科部長 高木 一孝

### 3. インフルエンザ脳症

福岡市立西部療育センター長 宮崎 千明

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ(年会費20,000円)として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は会費5,000円で参加いただけます。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線263 096-353-3515 (直通)

## 第94回 月曜会 (無料)

(内科症例検討会)

[日本医師会生涯教育講座3単位認定]

日時▶平成18年11月20日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

### 1. 呼吸器内科による胸部X線写真供覧

国立病院機構熊本医療センター呼吸器センター呼吸器内科医長 森松 嘉孝

### 2. 持ち込み症例の検討

### 3. 症例呈示「日本脳炎が疑われた一例」

国立病院機構熊本医療センター脳神経センター神経内科 高橋 亜紀

(現 救命救急センター)

### 4. ミニレクチャー「内視鏡的粘膜下層剥離術について」

国立病院機構熊本医療センター消化器病センター消化器科 押方 慎弥

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線写真、心電図等がございましたら、ご持参下さいますようお願い致します。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター副院長 河野 文夫 TEL: 096-353-6501 (代表) FAX: 096-325-2519

## 第80回 救急症例検討会 (無料)

日時▶平成18年11月22日(水)18:30~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

### 症例検討「耳鼻咽喉科救急」

国立病院機構熊本医療センター感覚器センター耳鼻咽喉科部長 土生健二郎

### 特別講演「熱傷の治療」

聖マリアンナ医科大学形成外科学教授 熊谷 憲夫

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急救命士、救急隊員、事務部門等全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線263 096-353-3515 (直通)

# 平成18年 研修日程表 11月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

11月	研修ホール	会議室	その他
1日(水)	19:00~21:00 第80回 最新医学の知識講座 座長 国立病院機構熊本医療センター放射線科医長 吉松 俊治 「放射線治療の最近の動向」 熊本大学大学院医学薬学研究部放射線治療医学教授 大屋 夏生	[日本医師会生涯教育講座5単位認定] 16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
2日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 18~19 代謝内科カンファレンス M
4日(土)	13:30~16:30 第105回 看護卒後研修(会費制) 「褥瘡のケアと栄養」 福岡大学医学部附属病院看護相談室看護師長・ET 梶西ミチコ		
6日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
7日(火)	18:30~20:00 病薬連携研修会	18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C
8日(水)		16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
9日(木)	19:30~21:30 歯科領域における救急蘇生法講座 講師 国立病院機構熊本医療センター麻酔科 川本 和彦ほか		7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 18~19 代謝内科カンファレンス M
10日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
11日(土)	13:30~17:00 第68回 ナースのための救急蘇生法講座(会費制) 講師 国立病院機構熊本医療センター麻酔科部長 江崎 公明ほか		
13日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
14日(火)	19:00~20:30 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C 19~21 泌・放射線科合同ウログラム C
15日(水)		16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
16日(木)	19:00~20:45 第63回 三木会 (糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定] [糖尿病療養指導士認定更新0.5単位認定]	19:30~21:00 有病者歯科医療研究会	7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 18~19 代謝内科カンファレンス M
17日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
18日(土)	15:00~18:00 第207回 初期治療講座《会員制》 座長 熊本市医師会 水元 裕二 「日常診療で診る小児の救急疾患 -発熱痙攣を中心に-」 1. 小児の発熱 国立病院機構熊本医療センター小児科医長 森永 信吾 2. 症例呈示・小児の痙攣 国立病院機構熊本医療センター小児科部長 高木 一孝 3. インフルエンザ脳症 福岡市立西部療育センター長 宮崎 千明	[日本医師会生涯教育講座5単位認定]	
20日(月)	19:00~20:30 第94回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定]		8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
21日(火)	18:00~19:00 第33回 くすりの勉強会(公開)	18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C
22日(水)	18:30~20:00 第80回 救急症例検討会 症例検討 「耳鼻咽喉科救急」 国立病院機構熊本医療センター-感覚器センター-耳鼻咽喉科部長 土生健二郎 特別講演 「熱傷の治療」 聖マリアンナ医科大学形成外科学教授 熊谷 憲夫	16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
24日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
25日(土)	14:00~16:00 第194回 滅菌消毒法講座《会員制》 「消毒の考え方と実際」 山口大学医学部附属病院薬剤部助教授 尾家 重治		
27日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
28日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(図) 19:00~21:00 小児科火曜会	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C
29日(水)	19:30~21:00 臨床口腔外科研究会	16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
30日(木)	18:30~21:00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会	7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 18~19 代謝内科カンファレンス M

(図) 図書室 C 病院本館2階カンファレンス 手術室控室 別6 別6病棟 外来 小児科外来 M ミーティングルーム

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

TEL 096-353-6501(代)内線263 096-353-3515(直通)